

就労準備支援事業従事者研修

就労体験を中心とした取り組み

社会福祉法人 うきは市社会福祉協議会
地域福祉課 相談支援係 地域福祉活動専門員

権藤 俊介



うきは市の概要



- 2005年、浮羽郡の浮羽町と吉井町が合併し、うきは市へ。
- 人口29,890人、世帯数11,022世帯（平成30年7月末現在）
- 高齢化が進み、65歳以上は全体の32.3%（平成29年4月現在）
- 同時に少子化も進み、15歳未満は12.5%（平成29年4月現在）
- 立地的には久留米市の東側で大分県日田市にも隣接している。
- 有名な産業は農林。果物（ブドウ・ナシ・イチゴ・カキ等）が有名。
- 工業では筑水キャニコム（作業用小型運搬車国内シェア50%）
- 白壁の街並みや温泉街が有名。



うきは市の生困における体制



- 平成26年度よりモデル指定。現在に至るまで市より委託を受ける。
- 当初より自立相談、家計相談、就労準備支援、学習支援の4事業を実施。
- 担当者は全員で6名。

①主任相談支援員（課長兼務）

②相談支援員（生困事業全対応+不登校・ひきこもり支援+子どもの貧困支援）

③学習支援 主担当（不登校・ひきこもり支援）

④就労準備支援 主担当（日常生活自立支援）

⑤家計相談 主担当（日常生活自立支援）

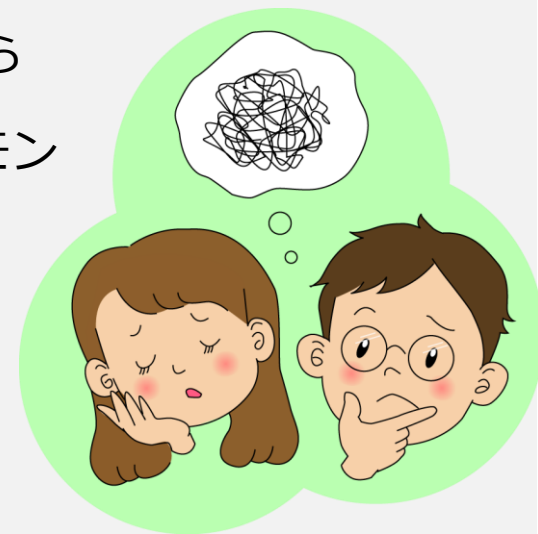
⑥就労準備支援 兼 学習支援 担当



事業化に向けてのキッカケ(H25)



- 不登校・ひきこもり対策相談支援事業（平成22年度より開始）から抽出された「どうしたら自分が働きやすいんだろう？」というギモン
- 障害者相談支援センターが開放している「ほっとスペースうきは」から抽出された「働きたいけど働けない。」という不安。



⇒ **当事者にとっての不安**

- ① **経験不足から引き起こす、就労への不安。**
- ② **接点が無い事が助長する、社会への不安。**



課題にどう向き合うか



・当時の担当者間の協議から導き出された方向性

障がい・ひきこもりなどのカテゴリに関わらず、気軽に来所できる居場所となる事と、就労への体験活動や職場との接点を持つ事、更には生活習慣の確立が可能となる場所の設定が必要。

⇒まずは超えやすいハードルが必要で、経験値・継続性を求めたい。

①就労に対する意識や向き不向き、性格等違いがあるので、その差を加味できる

仕事をどう調整するか。対価を得る形を作る為には。

②拠点となる場所をどのように調整するか。



状況を考えた仕事の選択



- 継続性が高く、個人の能力差や状態を加味できる仕事として**内職**を検討。各業者へと営業へ向かう事に…
 - 中古ゲーム・カード・マンガなどを取り扱う会社
 - 車・バイク・事務用品などのゴム部品を扱う工場
 - 百貨店やパティスリーなどの紙袋を取り扱う紙工業者
 - 道の駅に農作物を出荷する為の袋詰め作業が必要な個人農家
 - 無添加商品をネット販売している食品業者
 - 手作りで多くの麺(そうめん・ラーメン・そば等)を出荷する製麺所
 - 生活協同組合(清掃等の時間就労)



内職を実施できる拠点の整備



- 営業を実施した上で、数社が賛同してくれ、受入可能に。
- 内職はきた！…でも、どの場所を実施するか
 - ⇒ 障害者相談支援センター「ほっとスペース」が非常に広く、デットスペースもあった為、指定管理元の行政と協議をし、設置可能となった。
 - ⇒ 平成25年度より内職シェアステーションとして実施。

再就職を希望しているが なかなか仕事が見つからない方

〔課題〕

- 就職活動はしているが、決定するまでのつなぎの仕事が確保できない
- うきは市内での仕事なかなか求人として挙がらない
- 自動車などの移動手段を持たずに、近場での就職を探すほか無い
- ある程度年齢が上がると雇用してもらえない

外国から来られ一般就労が難しく 知り合いも少なく孤立しがちな方

〔課題〕

- 言葉やコミュニケーションの問題がある
- 社会との繋がりが狭い方が多い
- 自動車などの移動手段を持たずに、近場での就職を探すほか無い
- 家以外で気兼ねなく出て行ける場所が無い

生活保護受給中で仕事を探している方

〔課題〕

- 保護係の指導の元にハローワークに通っているがなかなか仕事が見つからない
- 保護係の指導は、ハローワークでの職探しになるため、実際の仕事を斡旋できない
- 職探しに積極的でない者もあり、仕事に対する姿勢などが確認しづらい
- 経済的理由で社会との繋がりが狭い方が多い

刑務所から出てきた方

〔課題〕

- 保護司が世話をするがなかなか一般就労に結びつかない
- 前科や仕事のブランクがあり、通常の就職活動では就職が困難
- 社会との繋がりが途切れている方が多い
- 悪しき人間関係が再発する可能性がある

ひきこもりだった方

〔課題〕

- 若い頃からのひきこもりは、社会経験・就労経験が乏しい（無い）
- 自己否定感が強く、最初から一般就労では他人と比較ばかりして悲観する
- 就職活動を展開できるエネルギーがまだ備わっていない
- 家以外で気兼ねなく出て行ける場所が無い

内職シェアステーション CoCoConne(こ・こ・こね)

個人では内職を契約しづらい
仕事を期限内に完結することが困難
そういった方に替わって内職を契約し
ここにすれば仕事ができ賃金も貰え
色々な人との交流接点にもなれる

軽度知的障害や発達障害の方

〔課題〕

- 一般就労の現場に組み込まれると仕事に無理がある
- コミュニケーションで誤解やトラブルを受けやすい
- 社会との繋がりが狭い方が多い
- 就労訓練の環境が身近に整っていない

障害児の家族で時間が制約される方

〔課題〕

- 子どもの学校・施設利用の送迎で働ける時間が大きく制限される
- 自分の障害ではないので、一般就職では職場や同僚になかなか理解されにくい
- 仕事を選んで探す余裕がなかなかない
- 子どもに異常があるときはすぐに仕事を休んで対応しなければならない

CoCoConneは、色々な生活のしづらさを抱え、経済的な問題などもあり地域との関わりが希薄になっている方々に“内職”と“集まれる場所”を提供することで

- ①内職を通して他人との接点づくりをおこなう
- ②本格的な就職までの助走期間として仕事に慣れる
- ③他人と協力・分業して効率的に仕事を進める訓練をする
- ④仕事に慣れていない者にも、短時間でも仕事に関わるチャンスを拡げる
- ⑤仕事のシェアによって、個人責任の負担を軽減する
- ⑥仕事の熟練経過を観察評価し、本格的な就職に結びつける材料にする
- ⑦わずかかも知れないけれど自分で稼いだ賃金がもらえるという効果を目指します

就労準備支援事業へ



- 内職シェアステーションはあらゆるタグを問わない、「誰でも参加できる就労への中間支援の場」として実施していくこととし、参加者が次のステップへと導き出せる環境作りへとチャレンジすることとした。
- 平成26年度からは市が生活困窮者自立支援事業のモデル指定を受けた事をキッカケに、就労準備支援への本格的にシフトチェンジ。参加する機会を設けるだけでなく、就職等を見据えた活動を実施していくこととなった。



就労準備支援事業(現在)



- 就労に向けたプレ就労(コココネ)
 - ① ゴム製品のバリ取り
 - ② 製麺所より出荷した麺の計量・袋詰め+コラボ商品の販売・試食対応
 - ③ 野菜の袋詰め(不定期)
- 就労への準備活動
 - ① 履歴書・面接準備・面接後のフォロー
- 就職先開拓(JA・行政との共同活動、無料職業紹介所との連携、独自開拓)
- 就職後のフォローアップ(企業・当事者)
- 生活支援(多事業との共同)



関わった企業との関わり



- ゴム製品の受託先から…

- 人間関係を再構築する上での社会との接点作り

- 納品時に当事者も同行し、指導を受ける機会を作る。

- 製麺所の受託先から…

- 内職収入をより増加し、働くモチベーションを向上する

- 製麺所とのコラボ商品の販売へ。平均工賃が1万円を超える。



コラボ商品の販売



まえむき(ラーメン 5食)
1,000円
あとおし(冷麺 5食)
1,000円
つながり(そば 3食)
500円



長尾製麺のご厚意で、
原価分以外の収益は全て
就労準備支援で活動して
いる皆さんに分配されま
す。



うきは市の当事業の特性



- ① 中間就労の場を外ではなく社協で作し、生活状況や社会性などを育む。
- ② 当事者が参加できるハードルでの環境設定からゆるやかにステップアップ。
- ③ 作業状況の説明、当事者の状況を事業所側へも見える形で提示。
- ④ 事業所側の強み、当事業及び社協の強みを共有する。
- ⑤ うきは市の産業とマッチングする事で、更なる見通しも。



働くって本当に大変！だけど、 誰かに必要にされるって嬉しい！

これは来所していた、ある当事者の方の声です。

自分たちも働くって本当に大変ですね。

「誰か」の声に支えられたり、「誰か」に声を吐き出したい…

その「誰か」になれるように、

これからも担当者と共に、仕組みを考えていきます。

私たちの活動が何か参考になれば、幸いです。



追加資料



就労体験で工夫している事



- ①当事者のやりたい事とのマッチング。食わず嫌いへの調整。
- ②それぞれの能力や心身面での配慮事項を捉え、本人レベルでの促しを。
- ③体験先（内職納品先）と本事業の主旨について共有を図る。
- ④体験先（内職納品先）の事情を知る。
- ⑤多様な連携先の可能性を感じる。福祉の視点だけでは難しい。

